

## 「なりたい親」におよぼす思春期の親子関係の影響

さくらい とよこ      ほん だじゅんこ  
櫻井登世子      本多潤子\*1

### 〈要 旨〉

少子高齢化社会をむかえ、父親、母親の役割に対する認識も一昔前と様変わりしている。若者たちは将来自分が親になるとしたら、どんな父親、母親になりたいと思うのであろうか。本研究では、親子関係の葛藤がピークに達する思春期のころ、自分の親をどのように認識していたかということが、「なりたい親」におよぼす影響について検討した。思春期のころの親子関係を振り返り、自分の親と同じように子どもと関わりたいと思うかもしれないし、自分の親は反面教師となり、自分の親のように子どもと関わりたいと思わないかもしれない。質問紙によって得られた回答を分析した結果、「なりたい親」は自分の親を基準とした親であり、子どもにとって自分の親は「親のモデル」になっていることが示唆された。

### 〈キーワード〉

なりたい親, 思春期, 親子関係

### はじめに

少子高齢化社会をむかえ、現代の家族形態は一昔前とは大きく様変わりしている。核家族化が進む中で、父親、母親の役割も変化してきていると思われるが、いずれ家庭を持って父親、母親になると考えられる男女40名の大学生に父親と母親の役割について応答を求めた結果、父親の役割としては「子どもと一緒に遊ぶ」「子どもをお風呂に入れる」「お金を稼ぐ」「家事、育児を手伝う」「子どもを寝かせる」などの項目が多数意見として挙げられた。少数意見ではあったが、「威厳を保つ」「妻や子どもを大切に家庭を守る」のように、父親を家族の象徴、家長として認識している回答も得られた。母親の役割としては、「家事全般(料理, 洗濯, そうじ)」「子どもの世話」「しつけ」「子どもの遊び相手」などが挙げられた。母親はそうじや洗濯などの家事をこなし、子どもに食事を与えたり基本的な生活習慣をしつけたり、一緒に遊んであげたりしながら1日を過ごすということにな

---

\* 1 福岡県立大学人間社会学部

る。父親は働き、母親は家事や子育てをする、という役割分担は現在も尚根強いものの、父親も育児に参加するものである、と認識しているようである。父親の役割、母親の役割の双方に挙げられている遊びに関し、Lamb (1977) は遊びの相互作用を分析した。その結果、父親と母親では子どもとの遊び方が異なっていることが明らかにされた。母親は「いない、いないばあ」などの伝統的遊びやおもちゃを使っての遊びが多かったが、父親は身体的遊びや子どもがとくに喜ぶような独自の遊びをすることが多かったのである。このような遊びのタイプの違いは、子どもの親和行動が父親に対して向けられやすいことを説明している。

子どもに対する父性や母性の芽生えについて考えてみると、母親の場合は妊娠して体形が変化してきたり、胎動を感じたりして母親になることを実感し、出産することにより「自分はこの子の母親なのだ」と母親としての意識が高まる。母親は子どもにミルクをあげる時等には、子どもの顔を見つめ、子どもに話しかけたりする。子どもも母親の顔をじっと見つめ、ときおりニッコリほほえんだりする。母親は子どもの笑顔にいとおしさを感じるようになり、このような母子相互作用を通じて母性はいつそう強いものになっていく。

父親の父性は妻から妊娠を知らされ「父親になるのかなあ」となんとなく複雑な思いを経験することから始まる。「複雑な思い」の中には、家父長的な責任感が含まれている。父親の場合は、子どもが生まれた初期の頃「おとうさんに目元がそっくりですね」とか、職場で「お子さんが生まれたのだから早く帰らなくちゃいけませんね」などと言われることによって、自発的というよりは外発的に父性を芽生えさせられることが多い。しかし、お風呂に入れたり、ミルクをあげたりして子育てに関わっていくうちに父性は徐々に強くなっていく。そして、子どもが少し大きくなり、自分が出かけるときに「行ってらっしゃい」と手をふって見送ってくれたり、仕事から帰ったときには「おかえりなさい」と玄関まで走ってきて笑顔で迎えられたりすると、疲れていても「ただいま」とわが子を抱き上げるサービスまでするようになる。このような父子相互作用を通じて父性は確固たるものになっていく。

## 問題と目的

親子相互作用により、家族関係は良好なものになっていくが、子どもが思春期にさしかかると、第二次反抗期が始まり、親子間の葛藤が多くなる。親の権威が相対的に低下し、子どもは親の言うことをすべては受け入れなくなる。小学生の頃は従順で親の言うことを素直に聞いていた子どもが、親に口ごたえをして親に反抗する様子が見られるようになる。自律性や自己決定を主張する子どもに対して、これまでどおりの親子関係を維持しようとする親は、今まで以上に権威的になり、行動を制限するなどして子どもとぶつかるこ

とも少なくない。思春期は、親への愛着と自律性に揺れる時期である。子どもの「自律した個体でありたい」という気持ちと「親と心理的につながってほしい」という気持ち、親の「自律を支援してあげたい」という気持ちと「自分のもとから離れないでいてほしい」という気持ち、というそれぞれアンビバレントな感情のなかで、親子は葛藤を経験する。Santrock (1993) は、この時期の親子間の葛藤は一般的であり、ポジティブな発達の機能をもっていることを指摘している。

このような親子関係の中で、思春期は自分が将来理想とする親はどんな親であろうか、ということを考え始める時期でもある。思春期のころ権威的な親に対して「自分を支配している」と感じ、親に反抗的であった子どもは、自分が親になったとき子どもに対して権威的に接するのは止めよう、と思うかもしれない。反対に、権威的な親の振る舞いを「自分を守ってくれている」と感じていれば、将来自分も子どもに対して権威的になるかもしれない。このように、思春期のころ、自分の親をどのように認識していたか、ということが「理想の親」、「なりたい親」に影響を及ぼすと思われる。親の養育態度が子どもの人格形成にどのような影響を及ぼすのかについての研究は行われてきたが（宮城，1960；Baumrind, 1971），親との関係を自己認識することによって自分がどのような親になりたいのかについて言及した研究は見当たらない。そこで、本研究では質問紙によって思春期のころ、どのように親を認識していたかを調べ、なりたい親とはどんな親なのかについて検討する。

## 方法

- (1) 被験者：神奈川県内のK女子大学生116名（平均年齢20歳）。
- (2) 質問紙：思春期のころの母親との関係を調べるために、久保田（1995）が作成した「思春期の頃の自分と母親との関係に関する認識を測定する尺度」を修正して使用した。質問紙は30項目からなっており、「非常に当てはまる」から「全くあてはまらない」の7段階評定とした（本研究の被験者は女子大生であったので、同性である母親との関係について応答を求めた）。  
どのような親になりたいかについての質問紙は、40項目からなっており、「全くそう思わない」から「非常にそう思う」までの7段階評定とした。質問にこたえた後で、「なりたいと思う親のイメージ」を自由記述させた。
- (3) 手続き：授業中に集団で実施した。思春期の頃の自分と母親との関係に関する認識を測定する尺度についての質問紙を実施し、その1週間後に同一被験者に対してどのような親になりたいかについての質問紙を実施した。

## 結果

### 1. どのような親になりたいかについての質問紙

「どのような親になりたいか」についての40項目からなる質問について因子分析をした結果、表1に示すように4つの因子が抽出された。

第1因子の「支配」は、「親の言うことを素直に聞く子どもに育てたい」「子どもから尊敬され、目標にされたい」などの項目から構成されている。

第2因子の「寛容」は、「子どもの人格を認めてあげたい」「子どもの心を大切にしたい」などの項目から構成されている。

第3因子の「放任」は、「仕事も子育ても両立したい」「子どもに不自由ない豊かな生活をさせてあげるためにも共働きをしていきたい」などの項目から構成されている。

第4因子の「溺愛」は、「自分の時間を削っても子どもにつくしたい」「子どもを包み込んであげたい」などの項目から構成されている。

### 2. 思春期のころの母親との関係に関する認識についての質問紙

「思春期のころの母親との関係に関する認識」についての30項目からなる質問について因子分析をした結果、表2に示すように4つの因子が抽出された。この4因子は、久保田の結果とほぼ一致しているが、各因子を構成する質問項目は異なっている。

第1因子は「拒否」であり、「母親がうっとうしくなった」「母親の愛情を素直に受けとめられなかった」などの項目から構成されている。

第2因子は「侮蔑」であり、「母親に支配されていた」「母親の存在がうすくなった」などの項目で構成されている。

第3因子は「敬愛」であり、「母親への感謝の念が起こった」「母親を尊敬するようになった」などの項目から構成されている。

第4因子は「依存」であり、「母親のいうことを聞いていれば間違いないと思った」「母親以外に相談相手はいなかった」などの項目から構成されている。

### 3. 各尺度の得点化

「どのような親になりたいか」と「思春期のころの母親との関係に関する認識」の各項目についての結果を得点化し、下位尺度ごとに合計得点を算出し、下位尺度得点とした。各下位尺度および「どのような親になりたいか」について、40項目の合計得点の平均と標準偏差を表3に示した。

### 4. 「どのような親になりたいか」と「思春期のころの母親との関係に関する認識」との相関関係

「どのような親になりたいか」と「思春期のころの母親との関係に関する認識」の各下位尺度得点の相関係数を表4に示した。

表1 「どのような親になりたいか」の4因子の構成項目と因子負荷量

第1因子「支配」	
28. 親の言うことを素直に聞く子どもに育てたい	.81
21. 子どもから尊敬され、目標にされたい	.76
27. 子どもが自慢したくなるような親でありたい	.68
11. 子どもには良い親と思われたい	.62
33. 子どもの生活を親として管理したい	.62
26. 目標、理想を持って子どもを育てたい	.59
29. 子どもに習い事をたくさんさせたい	.56
15. 自分の夢を子どもに託したい	.52
24. 子どもに適切なアドバイスをしてやりたい	.46
31. 夫婦間で話し合い、一貫性のある育て方をしていきたい	.46
30. 子どもの要求を何でも聞き入れてあげたい	.43
23. 季節の風物的行事を大切に、その心を子どもに伝えていきたい	.41
第2因子「寛容」	
17. 子どもの人格を認めてあげたい	.72
20. 子どもの心を大切にしたい	.71
40. 子どもの考えをきちんと聞いてあげたい	.69
34. 子どもの自主性を尊重し、見守ってほしい	.67
14. 子どもの個性を認めてあげたい	.63
6. 子どもの持っている可能性を伸ばしてあげたい	.63
39. 一緒にいて子どもに安心感、信頼感を与えたい	.51
35. 子どもの学歴にはこだわらないようにしたい	.49
22. 子どもの表情を見て変化に気付けるようになりたい	.47
36. 子どもを叱る時に感情的にならないようにしたい	.35
第3因子「放任」	
18. 仕事も子育ても両立したい	.86
9. 子どもに不自由ない豊かな生活をさせてあげるためにも共働きをしていきたい	.79
16. 家にいて子どもの帰りを待ちたい	-.72
38. 子育てだけに専念せず、自分の時間も大切にしたい	.48
32. 子どものおやつは手作りの物を用意したい	-.45
第4因子「溺愛」	
3. 自分の時間を削っても子どもにつくしたい	.62
2. 子どもを包み込んであげたい	.58
5. 子どもは誉めて育てたい	.57
7. 自分も勉強し、子どもを導いてあげたい	.56
13. 子どもと何でも話せる関係でありたい	.44

「どのような親になりたいか」の「支配」は、「思春期のころの母親との関係に関する認識」の「依存」と1%水準の正の相関が見られた。「どのような親になりたいか」の「寛容」は「思春期のころの母親との関係に関する認識」の「依存」と5%水準の負の相関がみられた。

表2 「母親との関係に関する認識」の4因子の構成項目と因子負荷量

第1因子「拒否」	
7. 母親がうっとうしくなった	.74
17. 母親の愛情を素直にうけとめられなかった	.74
1. 母親を嫌うようになった	.73
14. 母親とは口をきくのも面倒だった	.72
24. 母親への甘えを拒否しようとした	.60
15. 母親を恥ずかしいと思った	.59
8. 母親の適当なあしらい方を心得た	.58
6. 母親がいなければいいと思ったことがあった	.55
18. 家出にあこがれた	.54
16. 母親がつまらない人間に思えてきた	.51
9. 相談相手として母親は頼りなかった	.41
第2因子「侮蔑」	
21. 母親に支配されていた	.73
30. 母親の存在がうすくなった	.64
27. 母親がぎこちない態度で私に接しているのがよくわかった	.64
22. 母親はいつまでも私を子ども扱いしていた	.62
11. 母親とは無縁になりたかった	.60
13. 母親の世話になっていることが苦痛だった	.60
3. 母親を恨むようになった	.57
26. 母親のようになりたくないと思った	.44
28. 母親は私の成長に関心を示さなかった	.41
第3因子「敬愛」	
12. 母親への感謝の念がおこった	.71
4. 母親を尊敬するようになった	.70
5. 自分に向けられる母親の愛を感じるようになった	.69
10. 母親を一人の人間としてみるようになった	.66
19. 母親は私を尊重してくれた	.55
1. 母親の人生に共感を覚えるようになった	.43
第4因子「依存」	
25. 母親のいうことをきいていれば間違いないと思った	.63
29. 母親の期待にこたえようと努力した	.58
20. 母親は私の機嫌をうかがっていた	.53
23. 母親以外に相談相手はいなかった	.51

### 5. 「どのような親になりたいか」の質問紙で抽出された因子間の相関関係

表4が示すように、「支配」と「溺愛」との間には、1%水準の正の相関がみられ、「支配」と「寛容」の間には、1%水準の負の相関がみられた。「寛容」と「溺愛」との間には、5%水準の正の相関がみられた。

### 6. 「思春期のころの母親との関係に関する認識」の質問紙で抽出された因子間の相関関係

表3 下位尺度得点の平均（標準偏差）

どのような親になりたいか	
支配	52.78 (10.06)
寛容	63.22 ( 5.13)
放任	21.70 ( 5.47)
溺愛	33.56 ( 4.19)
母親との関係に関する認識	
拒否	34.63 (13.72)
侮蔑	22.05 ( 9.78)
敬愛	25.47 ( 6.44)
依存	10.86 ( 4.14)

表4 「どのような親になりたいか」と「母親との関係に関する認識」の下位尺度得点の相関係数

	寛容	放任	溺愛	拒否	侮蔑	敬愛	依存
支配	-.46**	-.09	.26**	-.16	-.10	.05	.32**
寛容		-.09	.22*	.01	-.05	.04	-.21*
放任			-.17	.17	.12	-.14	-.11
溺愛				-.08	-.07	.15	.10
拒否					-.65**	-.38**	-.10
侮蔑						-.33**	.09
敬愛							.24**

注)  $n=116$ . \*\* $p < .01$  \* $p < .05$

表4が示すように、「拒否」と「侮蔑」の間には1%水準の正の相関が見られ、「拒否」と「敬愛」の間には1%水準の負の相関がみられた。「侮蔑」と「敬愛」の間には1%水準の負の相関がみられた。「敬愛」と「依存」の間には5%水準の正の相関がみられた。

## 考察

### 1. 「どのような親になりたいか」に及ぼす思春期のころの母親との関係の影響

#### (1) 子どもを支配する親

「どのような親になりたいか」の支配因子は「思春期のころの母親との関係に関する認識」の依存因子と1%水準の正の相関がみられた。このことは、「母親のいうことをきいていれば間違いはないと思った」「母親の期待にこたえようと努力した」という質問項目に示されているように、母親に依存し、母親の支配下で行動して間違いはないと思っていた思春期の親子関係が、自分が将来親になったときに「親の言うことを素直に聞く子どもに育てたい」「子どもから尊敬され、目標にされたい」という質問項目に表れているように、子どもの上位に立ち子どもを支配するような親になりたいと思わせるのであろう。

## (2) 子どもに寛容な親

「どのような親になりたいか」の寛容因子は「思春期のころの母親との関係に関する認識」の依存因子と5%水準の負の相関がみられた。このことは、寛容な親になりたいと思う人は、質問項目にもあるように思春期のころ母親に依存していなかったと認識しており、自分の意思で行動し、母親のためではなく自分のために努力していたと考えられる。したがって、自分も子どもをひとりの人間として尊重することを理想とし、子どもに対して寛容な親になりたいと思うのではないかと考えられる。

## (3) 子どもを放任する親

「どのような親になりたいか」の放任因子は「思春期のころの母親との関係に関する認識」の4因子のいずれとも有意な相関関係は得られなかった。しかし、拒否因子、侮蔑因子と正の関係傾向、敬愛因子、依存因子と負の関係傾向がみられた。このことから、「母親を嫌うようになった」「母親のようにはなりたくないと思った」という質問項目が示すように、母親をわずらわしく思ったり、軽蔑したりしていたという認識は、母親への尊敬や感謝を否定し依存もしなくなると考えられる。親になったとしても、母子の結びつきが弱かったために育児に対して関心が持てず、子どもにどのように関わればよいのかわからない、ということになる。「家にいて子どもの帰りを待ちたい」「子どものおやつは手作りのものを用意したい」という気持ちにはなれず、母子関係は希薄になり、放任的な親になりたいと思うようである。

## 2. 「どのような親になりたいか」で抽出された因子の関係

支配因子は寛容因子と1%水準の負の相関、溺愛因子と1%水準の正の相関が見られた。また、寛容因子は溺愛因子と5%水準の正の相関が見られた。このことは、「溺愛」には2つのタイプがあることを示していると考えられる。

1つめは、自分の思いどおりの子どもになるように子どもを管理し、また、自分も子どもから理想の親と思われるよう行動するタイプである。2つめは、子どもの自主性を尊重しながらも、子どもに安心感を与えられるよう行動するタイプである。いまどきの親は1つめのタイプが多く、子どもを支配し溺愛しているように思われる。

## 3. なりたい親とはどのような親か

将来自分が「なりたい親」とはどのような親なのかについて、思春期の頃の母子関係を中心に検討してきた。その結果、思春期の頃の母親との関係は多かれ少なかれ「なりたい親」に影響を及ぼしていることが示された。

「どのような親になりたいか」の質問紙で、なりたいと思う親のイメージが形成された要因を自由に記述してもらったが、その内容からも良好な母子関係であったと認識していた人は、自分の親のようになりたいと思っていた。反対に、母子関係が良好でなかったと認識していた人は、自分が嫌だと感じていたことは子どもにはさせたくないと思い、自分の親は反面教師となり、親のようにはなりたくないと思っていた。



また、他の家庭の親を見て憧れたり、マスメディアなどから影響されたりして「理想の親」のイメージを自分の中で作り上げていったという記述も多く見られた。これも自分の親との関係が基になっており、自分の親との比較によって自分の親子関係にないものに憧れ、羨ましいと思ったのではないかと考えられる。自分の親が、親としての基準となり、「なりたい親」について考えていくと思われる。

しかし、自分自身が親にかまってもらった経験がないと、やはり自分も子どもに対して放任的な親になるだろう、という傾向が示されたように、結局は「なりたい親」は自分の親と同じような親ということになる。思春期のころ、母親との関係をどのように認識していたかということが、自分が将来「なりたい親」に影響を及ぼし、自分の母親をモデルとして子どもと関わっていくのではないだろうか。開原（2004）は、「親の育児放棄によって施設入所をした子どもたちが、親になったとき自分の子どもの育児放棄をして二代目も施設入所するという世代間伝播の事実があることを見届けた」と報告している。このような子どもたちにとっては、育児放棄をした自分の母親がモデルとなっているために、子どもとの望ましい関わり方が学習できていないと考えられ、自分の母親に代わって堅実な親としてのモデルを示してくれる養育家庭への委託や育児支援が望まれる。

#### 参考文献

- Baumrind, D. 1971 Current patterns of parental authority. *Developmental Psychology Monographs*, 4.
- 開原久代 2004 家庭が抱えた問題に合わせた支援—育児放棄・児童虐待・親の心の病・介護疲れ・DV 児童心理, 815, 49-54.
- 久保田まり 1995 アタッチメントの研究 川島書店
- Lamb, M. E. 1977 The development of mother-infant and father-infant attachments in the second year of life. *Developmental Psychology*, 13, 637-648.
- 宮城音弥 1960 性格 岩波新書
- 桜井茂男・岩立京子（編著）1997 楽しく学べる乳幼児の心理 福村出版
- 桜井茂男・大川一郎（編著）1999 しっかり学べる発達心理学 福村出版
- 桜井茂男・桜井登世子・松尾直博 1999 子どもの福祉 福村出版
- Santrock, J.W. 1993 *Children*, 3rd ed. Brown & Benchmark Publisher.

資料 1

学部	学科	学年	学籍番号	氏名				
<p>思春期の頃の母親との関係の認識について、次の質問のあてはまるところに○をつけて回答して下さい。</p>								
<p>思春期（中学2～3年の頃）になって私は、</p>								
<p style="text-align: center;"> <span style="float: left;">全 当 て は ま ら な い</span> <span style="margin: 0 20px;">← ————— →</span> <span style="float: right;">非 常 に は ま ら な い</span> </p>								
1.	母親を嫌うようになった。	1	2	3	4	5	6	7
2.	母親の人生に共感を覚えるようになった。	1	2	3	4	5	6	7
3.	母親を恨むようになった。	1	2	3	4	5	6	7
4.	母親を尊敬するようになった。	1	2	3	4	5	6	7
5.	自分に向けられる母親の愛を感じるようになった。	1	2	3	4	5	6	7
6.	母親がいなければいいと思ったことがあった。	1	2	3	4	5	6	7
7.	母親がうっとうしくなった。	1	2	3	4	5	6	7
8.	母親の適当なあしらい方を心得た。	1	2	3	4	5	6	7
9.	相談相手として母親は頼りなかった。	1	2	3	4	5	6	7
10.	母親を一人の人間としてみるようになった。	1	2	3	4	5	6	7
11.	母親と無縁になりたかった。	1	2	3	4	5	6	7
12.	母親への感謝の念がおこった。	1	2	3	4	5	6	7
13.	母親の世話になっていることが苦痛だった。	1	2	3	4	5	6	7
14.	母親とは口をきくのも面倒だった。	1	2	3	4	5	6	7
15.	母親を恥ずかしいと思った。	1	2	3	4	5	6	7
16.	母親がつまらない人間に思えてきた。	1	2	3	4	5	6	7
17.	母親の愛情を素直に受けとめられなかった。	1	2	3	4	5	6	7
18.	家出にあこがれた。	1	2	3	4	5	6	7
19.	母親は私を尊重してくれた。	1	2	3	4	5	6	7
20.	母親は私の機嫌をうかがっていた。	1	2	3	4	5	6	7
21.	母親に支配されていた。	1	2	3	4	5	6	7
22.	母親はいつまでも私をこども扱いしていた。	1	2	3	4	5	6	7
23.	母親以外に相談相手はいなかった。	1	2	3	4	5	6	7
24.	母親への甘えを拒否しようとした。	1	2	3	4	5	6	7
25.	母親のいうことをきいていけば間違いないと思った。	1	2	3	4	5	6	7
26.	母親のようになりたくないと思った。	1	2	3	4	5	6	7
27.	母親がぎこちない態度で私に接しているのがよくわかった。	1	2	3	4	5	6	7
28.	母親は私の成長に関心を示さなかった。	1	2	3	4	5	6	7
29.	母親の期待にこたえようと努力した。	1	2	3	4	5	6	7
30.	母親の存在がうすくなった。	1	2	3	4	5	6	7

## 資料 2

所属	学科	学年	学籍番号	クラス	氏名			
<p>あなたが将来親になった時を想定し、<u>どのような親になりたいと思うか</u>以下のことがらについてあてはまる場所に○をつけて回答して下さい。</p>								
全思 くわ そな うい ← ————— → 非 常 に 思 う								
1.	子どもとは友達のような関係でありたい。	1	2	3	4	5	6	7
2.	子どもを包み込んであげたい。	1	2	3	4	5	6	7
3.	自分の時間を削っても子どもにつくしたい。	1	2	3	4	5	6	7
4.	子どもの目線に立って物事を考えたい。	1	2	3	4	5	6	7
5.	子どもは誉めて育てたい。	1	2	3	4	5	6	7
6.	子どもの持っている可能性を伸ばしてあげたい。	1	2	3	4	5	6	7
7.	自分も勉強し、子どもを導いてあげたい。	1	2	3	4	5	6	7
8.	子どもは皆平等に育てたい。	1	2	3	4	5	6	7
9.	子どもに不自由ない豊かな生活をさせてあげるためにも共働きをしていきたい。	1	2	3	4	5	6	7
10.	子育てについて夫婦間で違いが生じた場合、夫の意見を尊重したい。	1	2	3	4	5	6	7
11.	子どもには良い親と思われたい。	1	2	3	4	5	6	7
12.	子どもと触れ合う機会を多く持ち色々な事を教えて伝えていきたい。	1	2	3	4	5	6	7
13.	子どもと何でも話せる関係でありたい。	1	2	3	4	5	6	7
14.	子どもの個性を認めてあげたい。	1	2	3	4	5	6	7
15.	自分の夢を子どもに託したい。	1	2	3	4	5	6	7
16.	家にいて子どもの帰りを待ちたい。	1	2	3	4	5	6	7
17.	子どもの人格を認めてあげたい。	1	2	3	4	5	6	7
18.	仕事も子育ても両立したい。	1	2	3	4	5	6	7
19.	子どもは健康が1番と思えるようになりたい。	1	2	3	4	5	6	7
20.	子どもの心を大切にしたい。	1	2	3	4	5	6	7
21.	子どもから尊敬され、目標にされたい。	1	2	3	4	5	6	7
22.	子どもの表情を見て変化に気付けるようになりたい。	1	2	3	4	5	6	7
23.	季節の風物的行事を大切にし、その心を子どもに伝えていきたい。	1	2	3	4	5	6	7
24.	子どもに適切なアドバイスをしてやりたい。	1	2	3	4	5	6	7
25.	子どもの前で夫婦喧嘩をしないようにしたい。	1	2	3	4	5	6	7
26.	目標、理想を持って子どもを育てたい。	1	2	3	4	5	6	7

資料2 (つづき)

	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <span style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">全思 くわ そな うい</span> <span>←</span> <span>→</span> <span style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">非 常 に 思 う</span> </div>						
27. 子どもが自慢したくなるような親でありたい。	1	2	3	4	5	6	7
28. 親の言うことを素直に聞く子どもに育てたい。	1	2	3	4	5	6	7
29. 子どもに習い事をたくさんさせたい。	1	2	3	4	5	6	7
30. 子どもの要求を何でも聞き入れてあげたい。	1	2	3	4	5	6	7
31. 夫婦間で話し合い、一貫性のある育て方をしていきたい。	1	2	3	4	5	6	7
32. 子どものおやつは手作りの物を用意したい。	1	2	3	4	5	6	7
33. 子どもの生活を親として管理したい。	1	2	3	4	5	6	7
34. 子どもの自主性を尊重し、見守ってほしい。	1	2	3	4	5	6	7
35. 子どもの学歴にはこだわらないようにしたい。	1	2	3	4	5	6	7
36. 子どもを叱る時に感情的にならないようにしたい。	1	2	3	4	5	6	7
37. できる限りの愛情を注いで子どもを育てたい。	1	2	3	4	5	6	7
38. 子育てだけに専念せず、自分の時間も大切にしたい。	1	2	3	4	5	6	7
39. 一緒にいて子どもに安心感、信頼感を与えたい。	1	2	3	4	5	6	7
40. 子どもの考えをきちんと聞いてあげたい。	1	2	3	4	5	6	7

あなたがなりたいと思う親のイメージはどのような要因によって形成されたと思いますか、簡単に教えてください。

ex. 自分の育った環境, マスメディアの影響…